

令和6年 3月 4日

出張報告書

栗山町議会議長

鵜川 和彦 様

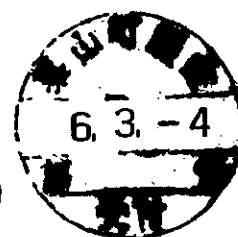
栗山町議会議員 堀 文彦



このたび、下記のとおり出張いたしましたので報告します。

記

- 1 期 日 令和6年 2月 4日
- 2 出張先 東京都
- 3 研修事項 「政策サイクル推進地方議会フォーラム」公開セミナー
ミライの議員・議会のために～住民福祉の向上と地方議会の政策サイクル～
- 4 関係書類 別紙のとおり



ミライの議員・議会のために

～住民福祉の向上と地方議会の政策サイクル～

- バックキャストでミライの議会・議員の姿を展望！
- 議員のなり手不足解消とコミュニティ自治の行方は？
- 議会は住民自治のプラットフォームだ！

開催趣旨

北海道栗山町議会による議会基本条例の制定(2006年)から17年余りが経過しました。議会改革は第2ステージに入ったと言われますが、形式的な改革から実質的な改革への歩みはまだ本格的なものになっていません。2023年統一地方選においても議員選の投票率の低下、無投票率の増加に歯止めがかからず、一部では女性議員が増えたものの、町村を中心に議員のなり手不足はより深刻化・クローズアップされました。

(公財)日本生産性本部では、「地方議会における政策サイクルと評価モデル研究会」(座長＝江藤俊昭・大正大学教授)の設け、「地方議会成熟度評価モデル」を開発するとともに、評価の実装化を通じて地方議会におけるさらなる住民福祉の向上を支援してきました。成熟度評価では「議会からの政策サイクル」の確立が前提となると同時に、「バックキャスト」でミライの議会・議員のありたい姿を展望することで、これから本格化する人口減少社会に議会・議員がいかに適応していくかを考えてきました。

本セミナーでは、議員のなり手とも密接にかかわるコミュニティのあり方とともに、ミライの地方議会・議員の姿を展望します。

会場 全国町村会館 2階ホール
(東京都千代田区永田町1-11-35)

対象 地方議会の議員、議会事務局の職員
他

定員 100名(会場定員、先着順)
※オンライン配信は行いません。

登壇者



大正大学
社会共生物学部教授
江藤 俊昭 氏

えとう・としあき 1956年東京都生まれ。中央大学大学院法学研究科博士課程満期退学。博士(政治学)。マニフェスト大賞審査委員、(公財)日本生産性本部「地方議会における政策サイクルと評価モデル研究会」座長、第29次・第30次地方制度調査会委員などを歴任。『議会改革の第2ステージ』『自治体議会学』『地方議会改革』『議員のなり手不足問題の深刻化を乗り越えて』『非常事態・緊急事態と議会・議員』など著書多数。



東京都立大学
法学部教授
大杉 寛 氏

おおすぎ・さとる 1964年横浜市生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士(学術)。専門分野は、行政学、地方自治論。東京都立大学法学部助教授を経て、2005年から現職。総務省地域づくり人材の養成に関する研究会座長などを始め、国・自治体の審議会等委員を歴任。著書に、『コミュニティ自治の未来図』『これからの地方自治の教科書 改訂版』など。



兵庫県西脇市議会
議長
林 晴信 氏

はやし・はるのぶ 1967年西脇市生まれ。甲南大学経済学部卒業。1996年、28歳で西脇市議会議員初当選(以降8期連続当選)。第9代、第11代、第13代議長。議長就任以降、西脇市議会を早稲田大学マニフェスト研究所議会改革度ランキング全国1位(2018年度)、日経グローバル議会活力度ランキング全国1位(2019年度)に導く。「議会は住民の中にある」「議会は住民自治のプラットフォーム」を掲げ、議会活動の傍ら、全国の自治体議会議員に研修講演等を精力的に行う。

※登壇者の肩書きは2023年11月5日時点

2024年2月4日(日)
13:30～17:30

お申込みは
こちら



参加費 議員 11,000円
議会事務局職員・市民等 5,500円
※いずれも税別

コーディネーター:千葉茂明(日本生産性本部上席研究員)



公益財団法人 日本生産性本部

日 時	令和 6 年 2 月 4 日 (日) 13:30～17:30
研修先	全国町村会館（東京都千代田区永田町 1-11-35）
研修事項	「政策サイクル推進地方議会フォーラム」公開セミナーミライの議員・議会のために ～住民福祉の向上と地方議会の政策サイクル～
主催者	日本生産性本部
1. 研修目的	(1) 政策実現につながる一般質問作成技術の習得 (2) 少子化問題を把握し、その改善策を具現化する
2. 研修内容	(1) 講演「ミライを展望した地方議会の政策サイクル」 ・講師 大正大学社会共生学部教授 江藤俊昭 氏 (2) 講演「コミュニティ自治とミライの議会」 ・講師 東京都立大学法学部教授 大杉 寛 氏 (3) 実践報告「議会は住民自治のプラットフォーム」 ・兵庫県西脇市議会議員、前議長 林 晴信 氏 (4) パネルディスカッション 「ミライの議会・議員のためにイマの議会・議員に求められるもの」
3. 参考事例	(1) 議会からの政策サイクルの発見 ①三重県議会…新しい政策サイクル →決議等による首長等の縛り ②会津若松市議会…議会からの政策形成サイクル →住民を起点に政策開発 ③飯田市議会…まちづくり委員会との協働による政策サイクル →住民との意見交換会での意見をもとに政策提言議会による行政 評価から決算審議・予算審議 (2) 兵庫県議会「議会と語ろう会」の開催方法変更 ・対面式議会報告会からワークショップ形式へと変更

4. 考 察

(1) ミライを展望した地方議会の政策サイクル

- ①「思いつきではない改革」→議会基本条例に刻み込む
- ②運営を明確にした議会基本条例の展開
- ③形成とともに内容を→住民福祉の向上に連動させる
- ④議会から政策サイクルの発見
- ⑤多様性の充実強化→多様性こそ議会の存在意義の再確認
- ⑥従来の議会運営からの脱却
- ⑦地域民主主義の劣化
→投票率の低下、なり手不足、議員の属性の偏り
- ⑧議会・議員の条件整備
- ⑨代表民主制の再考→ミニ・パブリックスとの連動
- ⑩選挙制度改革へ
- ⑫二元代表制を「破壊」「超克」する地方政府形態論

(2) コミュニティ自治とミライの議会

- ①「担い手」問題という難題
- ②ミライの議会と「持続可能性」
- ③議会の役割の明確化
- ④問われるコミュニティの在り方
→コミュニティそのものが「多様な人材」を包摂し、開かれていなければ意味が無い
→コミュニティ・議会の有り様は、それぞれ相互規定性が高い
→コロナ禍の影響でコミュニティ活動が消極的傾向に
- ⑤コミュニティ・リーダーとしての議員
→人口減少時代にあっても、躍動する地域づくりの先導役
- ⑥コミュニティ最前線での議会
→自治体議会だからこそコミュニティの最前線に議会があることを意識すべき
- ⑦国・自治体の法令改正等の制度改革を探求する
→コミュニティ自治との連携・協働の実質化
→議員がコミュニティ・リーダーとして活動しやすい環境づくり